

授業科目名	女性と科学の関係史
担当教員名	岩手大学人文社会科学部 海妻 径子
【授業の目的】 アカデミズムのあり方や研究・実験の進められ方など、さまざまな「知」の生成のメカニズムに注目し、一見価値中立的なこのメカニズムが政治・経済諸制度などと同様に、いかにジェンダー不平等を生産／再生産しているのかについてのジェンダー史の知見を示す	
【授業の到達目標】 ジェンダー不平等を再／生産科学のあり方および科学と女性との関わり方はいかにして可能なのかに関し、基礎的な理解を獲得する	
【授業の概要】 とりわけ90年代以降高まってきた、(自然)科学という「知」の生成メカニズムをめぐるジェンダー史・ジェンダー研究の議論の概要を紹介するとともに、そもそも近代自然科学の登場以前における女性の科学との関わり方はどのようなものだったのか、また、科学の探究対象としての「自然」や「身体」のとらえられ方は歴史的にどう変化してきたのか、に関する議論を、先行研究の知見に依拠し説明する。 1 オリエンテーション～何が「科学」と女性の結び付きを変えるのか 2 近代西欧科学の登場以前 (1) 古代社会と実用技術 3 近代西欧科学の登場以前 (2) ルネサンス・大航海時代／修道院と大学 4 近代西欧科学の萌芽 (1) サロンと家業 5 近代西欧科学の萌芽 (2) 17世紀科学革命の光と影 6 中間まとめ (1) 7 近代西欧科学と女性の再接近 (1) 戦争と低賃金 8 近代西欧科学と女性の再接近 (2) 男女共同研究者の時代 9 近代西欧科学と女性の再接近 (3) 日本における女性近代科学者の出現 10 近代西欧科学と女性の再接近 (4) 環境破壊と女性科学者への注目 11 中間まとめ (2) 12 現代の女性と科学 (1) なぜ女性科学者は少ないのか？ 13 現代の女性と科学 (2) 女性科学者が少ないことはなぜ問題なのか？ 14 様々な理系女性の先達たち 15 総まとめ	
授業に関連するキーワード	ジェンダー、近代史、共同参画、gender、modern、equality、SDGs
授業形式	講義
成績評価方法 採点基準	授業内でのレスポンスカードへの回答状況 (40%) と期末レポート (60%) を勘案する。
その他	